

令和4年度第1回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会

要点録

○協議会概要

開催日時	令和4年7月13日（水）19時00分～20時00分	
開催方法	Web開催	
出席委員	新垣 美郁代 会長 齋藤 伸介 委員 後藤 靖治 委員 前山 英之 委員 三浦 未来 委員	渡邊 郁子 副会長 浅井 英夫 委員 影近 卓大 委員 小泉 勝長 委員 柗渕 正 委員 (計10名)
欠席委員	明石 のぞみ 委員 小林 啓子 委員	岸野 美由紀 委員 (計3名)
事務局	健康福祉部長 小野澤 保険年金課長 松下 介護保険課長 廣瀬 地域ケア推進係 多摩市高齢者在宅療養支援窓口 相談員 淵野	保健医療政策担当部長 伊藤 高齢支援課長 五味田 地域ケア推進係長 八木 (計10名)
公開区分	公開	
傍聴者	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から無し	

○議事内容

< はじめに >

1 委員について 第5期委員紹介（新任委員の紹介）

【事務局】

- ・事務局及び委員より挨拶
- ・今年度より明石委員と小泉委員が新たに着任

< 報告事項 >

2 令和4年度多摩市在宅医療・介護連携推進事業 年間計画（案）

【事務局】

資料2を用い要点を説明。

- ・協議会と研修会、高齢者在宅療養支援窓口の年間計画を資料に沿って説明

3 第1回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会 研修部会の実施報告

【事務局】

資料3を用いて要点を説明。

- ・令和4年度は研修会を計2回開催予定。
- ・1回目は10月～11月頃に認知症の早期発見と医療のつなげ方について、2回目は2月頃に多職種におけるグループディスカッションを予定している。

【委員（歯科医師）】

- ・歯科の領域では外来が中心だったが訪問も実施しており、認知症をどう捉えるかということについて試行錯誤を重ねてきている。
- ・研修会については認知症の患者と関わる方を中心に、参加させていただきたいと思っている。

4 多摩市高齢者在宅療養支援窓口について（令和3年度実績報告、多摩市及び市外病院）

【事務局】

資料4－①②③を用いて要点を説明。

- ・令和3年度は薬剤師からの相談が初めてあった。
- ・市民からは認知症と外科や内科を併用して受診できる医療機関の問合せが多かった。
- ・今年度の活動については専門職向けのリストの作成や、窓口ニュースや研修会を活用しMCSの更なる普及啓発を行う。

< 報告事項 >

5 今年度のテーマ「認知機能が低下した高齢者の意思決定支援について」(案)

【事務局】

資料5を用いて要点を説明。

- ・高齢者数や認知症有病者率、個別地域ケア会議や研修部会の結果から、今年度のテーマは認知機能が低下した方の意思決定支援について検討を行うことが必要であると考えられる。

① 現場で感じていること

【委員（柔道整復師）】

- ・認知症の患者が年々増えている実感がある。
- ・付き添いの家族の方に対してリーフレット等を用いて普及啓発を積極的に行っていく必要があると感じている。

【委員（訪問看護）】

- ・訪問看護の利用者においても、認知症患者は年々増えてきている。
- ・もの忘れ外来に繋げられる方はよいが、中々つながらずに苦慮しているケースも多い。

【委員（介護支援専門員）】

- ・支援に入った時点で意思決定が難しい状態や病院に行かなければいけない状態になっている方が多い。
- ・多職種でいつでも連携が取れるように関係作りを普段からしておくことが重要である。

【委員（地域包括支援センター）】

- ・認知機能が低下した方の地域ケア会議等でも事例があったが、在宅が限界の方でも本人が在宅を希望している場合の対応等に苦慮するケースが多い。判断能力が低下しており、毎回発言する内容が違ったとしても真摯に受けとめて、適切な対応をとることが大事。
- ・関わっている専門職で情報を適切に共有することで対応できることも多い。

② どのような取組が必要か

【委員（理学療法士）】

- ・チームの中でMCS等を活用して積極的に情報を共有していくことが大事。
- ・グループディスカッション等を行って連携を深めていくことが必要と考える。

【委員（病院相談員）】

- ・突発的に入院することになったケース等、本人に関する同意が得られないために治療に進むことができないことが多い。
- ・入院するにあたって身寄りがない方については同意が取れないことが一番の課題。
- ・後見制度へ繋ぐまでの支援の方向性など、連携が取りやすいように普段から連携を深めていくことが必要だと考える。

【委員（サービス提供事業所）】

- ・ケアマネジャーが医療と介護を繋げる際に板挟みになって苦労しているところをよく見ている。
- ・多職種連携のかなめはケアマネジャーであると考えているため、居宅部会と連携して医療・介護の連携をしていくのはどうか。

【会長】

- ・今年度については研修会で実施予定のグループディスカッションで各職種の抱えている課題を抽出し、抽出された課題からどのように検討していくかを第2回の協議会で検討していく。

6 その他

【委員（歯科医師）】

- ・基本的に義歯を無くすと6ヶ月つくることができないが、認知症の方は6ヶ月以内でも作れるようになった。

【事務局】

（もの忘れ相談事業）

- ・昨年度より実施しているもの忘れ相談事業を今年度も10月～3月で実施する。
- ・対象者については、今年度76歳を迎える方とかかりつけ医若しくは地域包括支援センターが必要と認めた65歳以上の高齢者とする。
- ・市内医療機関等関係機関にももの忘れ相談事業実施のポスターを掲載する。

（普及啓発リーフレット）

- ・昨年度の協議会で検討して作成した、在宅医療におけるリーフレットが完成した。
- ・地域ケア会議やサービス担当者会議等で活用して職種間の相互理解に役立てて頂きたい。

（次回の予定について）

- ・次回は2月の開催予定なので、日程については改めて相談させていただく。

以上